

駒場苑創立 30 周年

ご利用者にも 職員にも 選ばれる施設を目指して



坂野苑長の 悠々通信

新年度が始まりもう上半期が終わろうとしています。

私自身、新施設長としてバタバタ忙しくしており、あっという間に感じています。前回のみちくさの記事で今年度施設長として「採用」「新人定着」「職員定着」「行動変革」のための取り組みを行っていく、とお話しましたので、その実践についてご報告していきたいと思ひます。

「採用」

現在、特養駒場苑では9月に新しい職員が入り欠員はゼロとなりました。もちろん新人も含めてですので、新人が定着して、仕事を覚えていく過程で本質的な欠員ゼロとなっていけるようにつとめていきたいと思ひます。ただし欠員ゼロになったからといっても油断禁物。常に発信を続けなければ、不測の事態に対応出来ません。現在はスマホを使って仕事を探すがほとんどなので、いかにスマホのサイト、SNS等で発信をしていくかが鍵だと感じています。それで今、スリーエスという会社と一緒に試行錯誤をしています。スリーエスさんは、駒場苑を1つの事例として効果的な発信や職場体験の促進を一緒に考えて、無償で動いて下さっています。駒場苑職員のインタビュー記事等も載せておりますので是非以下のサイトよりご覧下さい。(駒場苑のホームページからもアクセスできます) このように常に新しい採用活動の試行錯誤を今後もしていきたいと考えております。

https://peraichi.com/landing_pages/view/komabaen

「新人定着」

こちらはまだ私自身の取り組みとして大きな取り組みは出来ておらず、特養主任や職員にお任せしてしまっている状況です。私としては今年度から新人への初日の新人研修を開始しました。採用時に駒場苑の介護の考え方については説明をし、共感を持った方に入って来てもらっていますが、入職時にもう一度再確認をしてもらう事と、それを通じて施設長と直接話す場を増やす事で、その後勤務をしていて、大きな不安を感じたり、困った事があった時に話しやすく出来るのではないかと考えております。

「職員定着」

今までの流れを見てると有期契約職員が退職するケースがほとんどです。これは背景に正職員との待遇の違いがあると為だと思ひます。月給には大きな違いはないのですが、賞与等を含めると年収で違いが出てくるからです。そこで、処遇改善加算(介護職員の待遇改善を使用目的とする加算)の有期契約職員への配分割合を更に増やす事でその違いを少なくしていきます。

「行動変革」

これにはケアやサービスのチェック機能を作る事が必要だと思ひます。過去に作ったルールや方針が時間の経過とともに風化していつてしまうのはよくある事です。これについてチェック機能を作り、あらためて元に戻す仕組みがなくてはいけません。キャリアパス評価(介護職員の資質向上の為の評価)や個人シート(介護職員個人の目標と自己評価)、第三者評価制度の結果等を活用して、このような仕組みを確立していく事を始めています。

駒場苑 30 周年記念行事

駒場苑の開設は平成元年12月です。今年30周年を迎えるにあたり、2つの記念行事を企画しました。

◆ 6月12日(水) 園まり歌謡ショー

開催しました!



素晴らしい歌声、素敵なお姿と優しいお人柄に魅了されました。ご利用者とご家族約100名にお楽しみいただきました。

◆ 11月17日(日) ~ 11月24日(日)

駒場苑グループ合同 作品展 開催!



特養駒場苑 デイサロンこまばグループホームこまばのご利用者の皆様の作品を1階ホールに一週間展示します。ご自由に御覧下さい。

愛隣会コンサート in デイサロン



10月31日(木)

13:15~14:45

デイサロンこまば (駒場苑2階)

ソプラノ歌手の中川美和さん

がクラシックの歌曲やオペラ、懐かしい日本の歌などを歌ってくださいます。

本格的なプロの歌声をお楽しみください。

鑑賞ご希望の方は駒場苑事務所までご連絡下さい。

【入場無料】

愛隣会 チャリティ映画会

『キセキの葉書』

10月23日(水)

開場 18:00 開演 18:30

場所: きゅりあん

(品川区立総合区民会館)

JR 京浜東北線 大井町駅前

チケット: 1,500円

駒場苑事務所にて販売致します



難病の娘と認知症とうつ病を併発する母に挟まれながらも勇敢に生き抜く主人公の実話に基づく感動物語。主演: 鈴木紗理奈



高橋相談員の ほのぼの日記

今年も7月の終わりに駒場苑の夏祭り「さんさん祭り」を開催しました。当日は台風の予報が出ていましたが、私達の心配をよそに天気にも恵まれてたくさんの方が遊びに来てくれました。



お祭りでは毎年多くのボランティアさんがお手伝いをして下さいます。普段から駒場苑にボランティアに来て下さっている方、学校の夏休みを使って来てくれた学生さん、区のボランティアセンターを通して来てくれた方、総勢13名のボランティアさんに支えられ、無事に開催することができました。

お祭りに限らず、普段から駒場苑ではボランティアさんの力をお借りしながらご利用者の生活を支えています。一昔前では介護士が食事、排泄、入浴の直接介護の他に余暇活動やシーツ交換、洗濯物整理等の間接業務を一手に引き受けて行っていました。その頃はご利用者の要介護度も今ほど高くなく、介護士が間接業務をそれほど負担なく行えていました。しかし時は変わり、ご利用者の要介護度が高くなってきている現在、介護士は直接介護を行うことだけで精一杯で間接業務まで手が回らなくなってきています。しかし、余暇活動もシーツ交換も洗濯物整理も全てご利用者が生活をしていくのに必要なことで、介護士ができない部分をボランティアさんが支えて下さっています。私達職員にとってボランティアさんの存在はとても貴重です。これからもボランティアさんに感謝しつつ、ご利用者の日々の生活を一緒に支えていきたいと思っております。と同時に、新たなボランティアさんを引き続き募集し、ご利用者の生活がより充実したものになるようにしていきたいと考えています。

内海主任の インタビュー



特養主任
うちうみ さとし
内海 智

◆ 介護の世界に入ったきっかけは？

高校卒業した頃、2世帯住宅で一緒に暮らす祖母のところに来ていたヘルパーさんと仲良くなり、「介護に向いているのでは？」と言われて興味を持ったのがきっかけです。

◆ 駒場苑に入ったきっかけは？

坂野苑長に誘われて。当時、坂野苑長が介護主任として『7つのゼロへの改革』を推進している最中でした。その環境の下で働くことに魅力を感じました。

◆ 実際に入ってみてどうでしたか？

一番印象深かったのは、トイレに行く人が多かったことです。トイレに行き座った途端に出るシーンを見て感動しました。「お一出た!!」という感じです。そのことをご利用者が落ち着き、不安がなくなるので動き回ったりすることも減り、結果的に職員も慌ただしく動かなくて良くなっていると感じます。

◆ 駒場苑が他の施設と違う点はなんですか？

『7つのゼロ』を実践している点です。たとえばおむつゼロ。他施設での経験者が入職した場合、戸惑いはあると思います。おむつの利便性を重視した反対意見があることは否定しません。機械浴ゼロも同様で、「本当に大丈夫？」と驚く方もいますが実際に機械浴無しでご利用者は気持ちよく入浴を楽しんでいます。駒場苑では「ご利用者の自立を損なうことやご利用者に不安を与えることで職員の大変さが増すことは防ぎたい」と考えています。「一見手間に見える取り組みが、長期的に見るとご利用者との良い関係性を築き、職員も気持ちよく働ける」ということを実感しているからです。

◆ 特養主任になって今後の展望は？

最近は無経験で入職される職員が増えてきたので、職員教育に力を入れていきたいです。駒場苑の7つのゼロをしっかりと伝え、「手間をかけてでも長期的に見て良いことをしている」という実感を味わってもらえたら嬉しいです。私自身も現場が大好きなので体が動く限りは現場に出たいと思っています。今後ともよろしくお祈りします。

駒場さんさん祭り

7月27日(土)に毎年恒例となりました夏祭りを開催しました。ご利用者・ご家族・法人内他施設のご利用者・地域の方など、総勢200名を超える皆様にお楽しみいただきました。



ウクレレボランティアグループ『レリーズ』さんが各フロアを回って楽しい演奏を聴かせてくれました。



給食委託業者の淀川食品さんが立派な屋台を出してくれました。



ラムネ屋さんに手作りおもちゃ屋さんにもバルーン屋さん。色々楽しんでもらいました

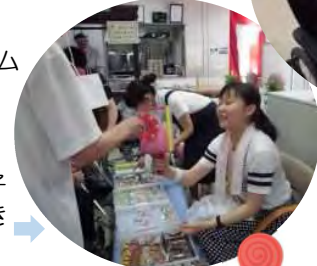


今年は綿あめ屋さんもやりました。機械を貸して下さり、綿あめ作りもして下さった大森老人ホームのFさんに感謝!



可愛いソフトクリーム屋さんは苑長の娘さん姉妹です!

昔懐かしい駄菓子屋さん。くじ引きで沢山もらってラッキー!!



ご家族揃って楽しい時間を過ごしていただきました。

